



特選  
2012  
日本PTA全国  
協議会会長賞

## 第45回「おかねの作文」コンクール

# 我が家の「生きたお金」

宮崎県・宮崎第一中学校 3年 松浦 史

「お母さん、時には外食に連れて行って!」

私が言うと、母が

「う〜ん。行く時には奮発するから、もう少し待っててね。」

と言った。

我が家の外食は年に2回程。兄が帰省して来た時と、親せきが集まった時くらいだ。

友達の「〇〇に行って〇〇食べた。」「今度〇〇に行く。」という外食の話の話を聞くとうらやましい。我が家はどのようにして外食しないんだろう?と思い、外食について調べてみた。

オリコンコミュニケーションズの統計によると、年末年始に外食へ行った回数は平均2.68回。1回の1人あたりの食事代は平均1,450円だった。主にファミリーレストランや回転ずし、ファストフード店へ行くそうだ。

我が家にあてはめてみると、家族5人で外食をしたら7,000円〜8,000円かかり、2〜3回行くとなると1万5,000円〜2万円もかかることになる。

つまり、家計をあずかる母にとって外食はおさいふに厳しいことなのだ。

そう思っていたつい先日、親せき一同が集まり、祖母の77歳のお祝いの会をした。合計17名も集まり、とてにぎやかで楽しい集いとなった。

帰りに支払いに行くと母が「ぼ〜ん」とお札を出した。

「使う時は思いっきり。また使ったお金が返って来るからね。」

と言った。すごい金額だったので明日からの我が家を心配したが、翌日からの食事もういつも通り質素ではあるが、おいしい食事だった。

母の言っていた使ったお金が返って来るとはどういうことなのか?

母に尋ねてみると、

「国の財政と一緒に収支のバランスが大切!!使わないと国全体がうるおわない。使い過ぎると破たんする。バランス良く使い、働いて稼ぐ。そうすると、その分帰って





来るんだよ。」

と言う。返って来るのではなく帰って来るのか。

国の財政について調べてみると国の1年間は90兆円程で動いている。入って来る歳入90兆円の49%が国債という借金で成り立っているらしい。つまり赤字財政であるということだ。その赤字は累積943兆円もあるというのだから驚きだ。

私達が外食しない一因は赤字財政になることを防ぐためだったのかと今なら納得できる。

我が家には浪人中の兄・高2の兄・私・祖母が2人もいるのだから、お金はいくらあっても足りないだろう。

父母が稼いだお金を有意義に使うために様々な工夫をしなければいけないのだなと痛感した。

そこで外食せずに自宅で食事を作って食べた時にかかる金額を算出してみた。母の買い物に付き合っ<sup>て</sup>レシートを借りて計算してみた。1回の買い物で平均6,000～7,000円。買い物は週に2回。つまり1週間で1万2,000円。1カ月にすると5万円程かかるようだ。その他、米代や油代も含めると7万円以上だ。1日3食、朝・昼・夜の割合は1：1：3。金額で1万5,000・1万5,000・4万5,000円。朝食は1日500円。夕食は1日1,500円かかることになる。昼食のお弁当はどう見ても1人あたり100～150円とは思えない。

コツを尋ねてみると安い時に買ってストックすること、同じ材料で違うものを沢山作ることだそう。外食と自宅での食事を単純に考えて5,000円程の差がある。月に2回外食すると1万円の差が出る。1年なら12万円。驚きの金額だ。

食事だけでなく教育・衣類・娯楽等のお金……国の財政どころか家族の家計にも工夫と努力が必要なのだ。

今回、外食について調べたことで

「〇〇買って！」

と言いつらくなってしまい、母の<sup>うれ</sup>嬉しそうな顔がうかぶ。そうなる私も財政難になりそうなので頭と笑顔で上手に乗り切りたい。父と母に生きたお金とは、どういうことだと思うか聞いてみた。父は、家族みんなで集うために使うものと、母は、知識の収集に使うこと、と答えた。時にはびっくりする支出に何でもない顔で応じる母。そして時には少しのお金でもこだわる母。





最後に父と母が口を揃<sup>そろ</sup>えて、子供と一緒に過ごせる有意義な時間にお金をかけることは何もおしくない!と言った。

我が家にとっての生きたお金の使い方は、「時の共有」なのだろう。

